

## 内部生命の充実

## 一、教

我々は、若葉青葉の茂っているのを見ると、張りきった内部生命の充実を感じます。若葉の頃とならなくても、雪や氷の中に、蕾や芽をつけた樹の上にもこの充実を感じます。如何なる場合にも生命はそれを外部より添えたり、加えたりすることは出来ません。内部より跳り出で、湧き出でる力です。この内から跳り出る力のみが、自然に、何もかを成就してゆくのであります。ですから、内からの力が湧いて出て来ない時は伸ぶことも、創造することも不可能であります。

草木でありますと、水をやり、肥料をやりますと、内からそれ自身力として、葉を茂らせ、花を咲かす力が出て来ますが、人間は唯食物を摂っただけでは、人間としての創造生活をしているとは言われません。草木は、幽鬱だとか、不平だとか、瞋恚、愚痴、嫉妬、懈怠、等々の心を持ちませんが、人間だけは、そうした暗黒な心をおこし退転したり、流転したりします。が、しかし、それ故に又精神文化の世界をも持ち得るのであります。この精神生活を持つということが人間の特徵であつて、不平があるかわりに感謝を持ち、泣くことがあるからこそ、笑うことがあるのであります。

そこで精神生活における食物は何であるのか。それは、「教」であります。この教ほど文化的創造の世界に必要なものはありません。教おしえと言う字は又、教のりと読みます。教とは法であります。法とは、私どもが知るに先だつて天地に動いている真理のことでもあります。その真理が我々に経験せられて法となり、言葉、言語となつて教のり、即ち教おしえとなるのであります。この教こそは、魂の尊い食物であります。ですから積尊は、この正しい教、み法を聞くということが、聖なるものを体得する唯一の方法であることを断言されたのであります。

随つて真実の内部生命の充実唯、真実の教を聞くということより外に生れては来ませぬ。真実の教が生きていることによつてのみ、高い生命の充実はあり得るのであります。而してこの真実教によつて生れる内部生命の充実を『金剛の信』ということが出来ます。信とは、如来の本願、如来の生命が、衆生の生命となつた相であります。

我等は積尊の上にこの大生命の充実を拝します。親鸞聖人の生命は如来の金剛の大信であることを拝みます。智慧と慈悲、それは如来心そのものであります。教以前に実在する法そのものであります。而して我等は、真実に真実教を聞くことによつて、この生命にふれて、大信心の衆生たるのであります。信心というのも、この智慧と慈悲、即ち如来の血液の充実であります。生命の充実であります。

## 二、自然法爾

親鸞聖人は、この他力の信を自然法爾という語で現わされました。自然というも、法爾というのも、それは人間の小さい小賢しいはからいを超えて、如来の願力に生きる相であります。自然のものは生きております。自然の相は生きた相であります。鎖でつないだり、型に入れたりして出来たものは死んでおります。内に火の消えたものに、外部から油をかけたとして何にもなりません。鎖を切り、箱から出した時、その

時現われる相が、そのものの真実の相であります。又鎖をつけられたら、型を持つて来られたら、消えてなくなるのも、内部生命に何ものも無かつたのであります。真実に本願に立上つた者の前には必ず何らかの新らしい天地が開いて来ます。

自然法爾とは、外から動かされる相でなくて、内から如来に生かされ動かされる生命充実の相であります。

しかし、単なる自然というだけでは、逆悪も亦自然であります。そこで、自然は、いわゆる業道自然と願力自然とに厳然としてわかたるべきであります。業道自然とは、本能的な自然であり、願力自然とは智慧光によつて生れる生活、如来の本願力による自然であります。第一義的自然であります。

人生創造を口にする人たちが、もし人間本能の放縦性にまかして、それを美化し、肯定することをもつて人生創造と考えるならば、それは大いなる誤りであります。

親鸞聖人は、自然法爾、即ち願力自然を説くにあたつて先ず『獲得名号』を提唱されました。

獲の字は因位のときうるを獲という……………  
得の字は果位のときにいたりてうることを得という……………  
名の字は因位のときのなを名という……………  
号の字は果位のときのなを号という……………

名号とは前に述べた通り、南無阿弥陀仏の不行であります。この不行を獲得することによつて、衆生の因果、菩薩から……仏への世界が開けて来るのであります。衆生の限りなき無明は、如来の智慧光に照破され、底なき煩惱の土壤は、如来名号の果種<sup>たね</sup>を懐いてのみ、そこに第一義的な自然法爾に生きる所以であります。

自然とは、行者のはからいを超えて、如来の純なる意志に動かされて生きる生命充実の相であります。大信心とは、この自然法爾なる生活の根底に内在する根本的な人間の力であります。この大信心の自証なくして、どこに本格的な人生創造があり得ましょう。

涅槃経、長寿品第四に曰く、

「大迦葉よ。恒河……………悉陀河等の八大河、及び、諸の小河は皆悉く大海に入る。是の如く、一切の人、天、地、虚空の寿命の大河は悉く如来寿命海の中に入るのである。是の故に如来の寿命は無量である。復次に迦葉よ。たとえば阿□達池は、四大河を出しているが如く、如来も亦そうである。一切の命を出したものである。」

一切の生命は如来に帰し、一切の命は如来より出る。  
生命は、人間のはからいでつくられるものではない。生命のみは、永遠に人間によつて左右し、造り出し、はからうことを許されなかつた一つのものである。如来は生命の生命である。

生命の限りなき発展において何処に創造があろう。人間のはからいをして、この無量寿の生命に帰すること、ここに創造生活の第一条件がある。生命の充実とは如来の大信に生きることである。